教科(科目)	体育①	単位数	3 単位	年次	1年次
使用教科書	最新高等保健体育				
副教材等	なし				

- ・自己の体力を把握し、無理の無い体力向上。
- 各単元での基礎技能の習得。

2 指導の重点

- ・生徒自身の体力の現状を把握し、基礎的な体力を向上させる指導を目指します。
- ・各単元で運動特性に応じた基礎技能を習得させる指導を目指します。

3 学習の計画 (選択①~③を選択する際に、ネット型・ベースボール型・ゴール型のいずれか2つを選択しなければならない)

体育①

月	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
	体つくり運動	体ほぐし運動や体力を高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、 健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようになる。	1 0	
	体育理論	スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特性を理解できるようにする。	6	
前	選択① バレーボール	状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。		
期	選択① サッカー	状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への 侵入などから攻防を展開できるようになる。	2 5	
	選択① 陸上競技	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、「短距離走」の技能を高め、中間走へのつなぎを滑らかにするなどして速く走れるようになる。		・授業への参加 意欲の観察
	陸上競技	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、「長距離走」の技能を高め、自己に 適したペースを維持して走れるようになる。	1 4	・授業中参加の
	選択② 柔 道	技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになる。		状況の観察
	選択② ソフトボール	状況に応じたバッド操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた 守備などによって攻撃を展開できるようになる。	2 5	・技能テストや 記録結果
後	選択② テニス	状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。		
期	選択③ 卓 球	状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。		
	選択③ バドミントン	状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間 を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。	2 5	
	選択③ バスケットボール	状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への 侵入などから攻防を展開できるようになる。		

計105時間(50分授業)

4 課題・提出物等

持久走はすべての生徒が同じ回数を走ります。欠席や見学した場合、後日補習をおこないます。

5 評価規準・評価方法

O H I III / J I I						
評価は次の4つの観点から行います。						
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解			
運動の楽しさや喜びを深く味	生涯にわたる豊かなスポーツ	運動の合理的な実践を通して、	選択した運動の技術(技) の名称や			
わうことができるよう、公正	ライフの実現を目指して、自	運動の特性に応じて勝敗を競っ	行い方、体力の高め方、課題解決の			
、協力、責任、参画などに対	己や仲間の課題に応じた運動	たり、攻防を展開したり、表現	方法、練習や発表の仕方、スポーツ			
する意欲を持ち、健康・安全	を継続するための取り組み方	したりするための各領域の運動	を行う際の健康・安全の確保の仕方			
を確保して学習に主体的に取	を工夫している。また、自己	の特性に応じた段階的な技能を	についての具体的な方法、スポーツ			
り組もうとしている。	の仲間の状況に応じて体力を	身につけている。	の歴史、文化的な特徴や現代のスポ			
	高めるための運動を継続する		ーツの特徴、運動やスポーツの効果			
	ための計画を工夫している。		的な学習の仕方及び豊かなスポーツ			
			ライフの設計の仕方を理解している			
			0			

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への参加意欲の観察
- •授業参加の状況の観察
- ・技能テストや記録結果などから、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

体ほぐし運動や基礎体力を高めるためのいろいろな運動を行います。 新体力テストを実施し、自己の体力の現状を理解します。 陸上競技、球技、武道などいろいろな分野の運動の基礎技術や知識を学びます。

教科(科目)	体育②	単位数	3 単位	年次	2年次
使用教科書	最新高等保健体育		副教材	なし	

- ・多くの運動量による体力の向上、充実を図る。
- ・各単元での習得された基礎技能を対人技能や試合に活かせるようにする。

2 指導の重点

- ・生徒自身の体力の現状に応じた体力を高めるための運動量を確保した指導を目指します。
- ・各単元での習得された基礎技能をより発展させ、対人技能や試合で生かすことを目指します。
- 3 学習の計画 (選択①~③を選択する際に、ネット型・ベースボール型・ゴール型のいずれか2つを選択しなければならない)

月	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
	体つくり運動	体ほぐし運動や体力を高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、 健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようになる。	1 0	
	体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方を理解できるようにする。	6	
前	陸上競技	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、「長距離走」の技能を高め、自己に 適したペースを維持して走れるようになる。	1 4	
期	選択① ソフトボール	状況に応じたバッド操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた 守備などによって攻撃を展開できるようになる。		
	選択① テニス 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を 作り出すなどの攻防を展開できるようになる。		2 5	・授業への参加
	選択① 器械体操	「マット運動」を行う課程で、技をよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己 に適した技を高めて、演技することができるようにする。		意欲の観察
	選択② サッカー	状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への 侵入などから攻防を展開できるようになる。		・授業中参加の 状況の観察
	選択② バレーボール	状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。	2 5	技能テストや
44	選択② 陸上競技	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、「跳躍種目」、「投てき種目」特有 の技能を高めることができるようにする。	2 3	記録結果
後期	選択② 柔道	技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになる。		
州	選択③ 卓 球	状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。		
	選択③ バドミントン	状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間 を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。	2 5	
	選択③ バスケットボール	状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への 侵入などから攻防を展開できるようになる。		

計105時間(50分授業)

4 課題・提出物等

持久走はすべての生徒が同じ回数を走ります。欠席や見学した場合、後日補習をおこないます。

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行い	います。		
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味	生涯にわたる豊かなスポーツ	運動の合理的な実践を通して、	選択した運動の技術(技)の名称
わうことができるよう、公正	ライフの実現を目指して、自	運動の特性に応じて勝敗を競っ	や行い方、体力の高め方、課題解
、協力、責任、参画などに対	己や仲間の課題に応じた運動	たり、攻防を展開したり、表現	決の方法、練習や発表の仕方、ス
する意欲を持ち、健康・安全	を継続するための取り組み方	したりするための各領域の運動	ポーツを行う際の健康・安全の確
を確保して学習に主体的に取	を工夫している。また、自己	の特性に応じた段階的な技能を	保の仕方についての具体的な方法
り組もうとしている。	の仲間の状況に応じて体力を	身につけている。	、スポーツの歴史、文化的な特徴
	高めるための運動を継続する		や現代のスポーツの特徴、運動や
	ための計画を工夫している。		スポーツの効果的な学習の仕方及
			び豊かなスポーツライフの設計の
			仕方を理解している。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への参加意欲の観察
- 授業参加の状況の観察

・技能テストや記録結果などから総合的に評価します。

6 担当者からの一言

体ほぐし運動や基礎体力を高めるためのいろいろな運動を発展させて行います。

新体力テストを実施し、1年次の記録を元に自己の体力の現状を把握・理解します。

1年次で学んだいろいろな分野の運動の基礎技術や知識を元に、より進んだ技術や知識を学びます。

球技ではゲームに必要な技術や知識を学びます。

教科(科目)	体育③	単位数	2 単位	年次	3年次
使用教科書	最新高等保健体育				
副教材等	なし				

- ・より多くの運動量により、体力の充実を図る。
- ・各単元でルールや審判法を理解しながら、ゲームや練習を自主的に行うことが出来る。

2 指導の重点

- ・体力を最も充実させ、運動量を上げた指導を目指します。
- ・自主的にゲームや練習ができるよう各自がルールの把握と審判法を身につけるとともに、発展的な技能を習得させる指導を目指します。
- 3 学習の計画 (選択①~②を選択する際に、ネット型・ベースボール型・ゴール型のいずれか2つを選択しなければならない)

月	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
	体つくり運動	体ほぐし運動や体力を高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを 味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や 自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることがで きるようになる。	1 0	
前	選択① テニス	状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって 空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。		
期	選択① ソフトボール	状況に応じたバッド操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に 応じた守備などによって攻撃を展開できるようになる。	2 2	・授業への参加
	選択① バレーボール	状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって 空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。		意欲の観察
	体育理論	豊かなスポーツライフの設計の仕組みについて理解できようにする。	6	・授業中参加の 状況の観察
	陸上競技	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、「長距離走」の技能を高め、 自己に適したペースを維持して走れるようになる。	1 0	・技能テストや
	選択② サッカー	状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開できるようになる。		記録結果
後	選択② 卓 球	状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって 空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。	0.0	
期	選択② バドミントン	状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようになる。	2 2	
	選択② バスケットボール	状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開できるようになる。		

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

持久走はすべての生徒が同じ回数を走ります。欠席や見学した場合、後日補習をおこないます。

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行い	評価は次の4つの観点から行います。							
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解					
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	生涯にわたる豊かなスポーツ ライフの実現を目指して、自 己や仲間の課題に応じた運動 を継続するための取り組み方 を工夫している。また、自己 の仲間の状況に応じて体力を 高めるための運動を継続する ための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、 運動の特性に応じて勝敗を競っ たり、攻防を展開したり、表現 したりするための各領域の運動 の特性に応じた段階的な技能を 身につけている。	選択した運動の技術(技)の名称 や行い方、体力の高め方、課題解 決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確 保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的な特徴 や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及 び豊かなスポーツライフの設計の 仕方を理解している。					
以上の観点を踏まえ、 ・授業への参加意欲の観察								

・授業中参加の状況の観察

・技能テストや記録結果などから総合的に評価します。

6 担当者からの一言

必履修最後の段階になるので、今までに学んだことを生かして、自主的・計画的に進めることを目指します。 体ほぐし運動や基礎体力を高めるためのいろいろな運動は継続します。

新体力テストを継続して実施し、自己の体力の現状を踏まえ、生涯にわたって体力を維持増進するための、運動とのかかわり方について考えます。

令和2年度シラバス

保健①

学番65 新潟県立出雲崎高等学校

教科(科目)	保健①	単位数	1 単位	年次	1 年次
使用教科書	最新高等保健体育				
副教材等	最新高等保健体育ノート				

1 学習の到達日標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける。

2 指導の重点

・健康の考え方、生活行動と健康、精神の健康等、保健を身近な問題としてとらえ、自分自身が健康に生活するために必要なことについて考える態度を育てます。

3 学習の計画

7,5				
月	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期		我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切で		・授業への参加意欲の観察・授業中参加の状況観察
後期	現代社会と健康	あるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を 適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理 解できるようにする。	35	・定期考査、プリント課題・ノートの記入状況

計35時間(50分授業)

4 課題・提出物等

① プリント課題

② 保健ノート

5 評価規準・評価方法

評価は次の3つの観点から行います。					
関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解			
生活と健康について関心をもち、意欲的に 学習に取り組もうとしている。	生活と健康について、課題の解決を目指し	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会 生活と健康について、課題の解決に役立つ 基礎的な事項を理解している。			

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への参加意欲の観察
- ・授業中参加の状況観察
- ・定期考査、課題テスト
- ・ノートの記入状況などから、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

生活習慣病や薬物、感染症や心の問題など、現代のさまざまな健康問題や新しい時代における健康のあり方などについて学びます。 (担当:山田 和人) 令和2年度シラバス

保健②

学番65 新潟県立出雲崎高等学校

教科(科目)	保健②	単位数	1 単位	年次	2年次
使用教科書	最新高等保健体育				
副教材等	最新高等保健体育ノート		•	•	

1 学習の到達目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける。

2 指導の重点

・家庭生活と健康、職業生活と健康、疾病予防活動、環境衛生活動と食品衛生活動、保健・医療制度についてできるだけ分かりやすく説明し、理解できるよう指導をします。

3 学習の計画

月	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	生涯を通じる健康	生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。	18	・授業への参加意欲の観察
後期	社会生活と健康	社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。	17	・授業中参加の状況観察 ・定期考査、プリント課題 ・ノートの記入状況

計35時間(50分授業)

4 課題・提出物等

① プリント課題

② 保健ノート

5 評価規準・評価方法

評価は次の3つの観点から行います。							
関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解					
	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会 生活と健康について、課題の解決を目指し て総合的に考え、判断し、それらを表して いる。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会 生活と健康について、課題の解決に役立つ 基礎的な事項を理解している。					

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への参加意欲の観察
- ・授業中参加の状況観察
- ・定期考査、課題テスト
- ・ノートの記入状況 などから総合的に評価します。

6 担当者からの一言

思春期から中高年期までの健康にかかわる事柄や、それぞれの生活段階に必要な保健・医療サービスの活用の仕方を学習します。 環境破壊が私たちに及ぼす健康問題と自然環境の保全にかかわる事柄について学習します。

令和2年度シラバス	生涯健康講座	学番65 新潟県立出雲崎高等学校
-----------	--------	------------------

教科(科目)	生涯健康講座	単位数	2 単位	年次	3年次~
使用教科書	最新高等保健体育				
副教材等	なし				

・「加齢に伴うさまざまな健康問題」をより発展的に学習し、生涯を通じて健康な社会生活を送るための健康管理の基礎知識と運動方法を 身につける。

2 指導の重点

- ・生涯を通じて個人の健康作りを、自ら積極的に実践できる知識と技術の習得を目指します。
- ・健康日本21の目的に基づき、授業内容をバランス良く配置するよう配慮します。。

3 学習の計画

月	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前	・自己の身体状況を知る ・ヘルスプロモーション の考え方を学ぶ	・講義(安静時心拍数、呼吸数、体温、肥満度等・健康を支援する社会的サービスについて) ・体ほぐし運動やストレッチング、筋力トレーニングの方法を学ぶ。	14	・授業への参加
期	・肥満による健康被害の 防止・生活習慣病の防止	・講義(食事バランス、ストレスに対する対処法等について) ・有酸素運動の実践方法を学ぶ。 ・ニュースポーツを中心に体を動かす楽しさを体験する。	22	意欲の観察 ・授業中参加の 状況の観察
後	・健康生活を阻害する問題行動について学ぶ	・講義(飲酒、喫煙、薬物乱用等健康生活を阻害する生活習慣について) ・前期に学習した運動を組み合わせ、各自に適したトレーニング方法について考える。	16	・学習ノート トレーニング計画
期	・健康を支える制度について ・各自の身体状況に応じた トレーニング計画作りと その活用	・講義(保健・医療制度や福祉制度等の様々なサービスの活用について) ・後期の前半までに学習したことを踏まえ、自己のトレーニング計画を作成し、実践する。	18	書の記入状況の観察

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

・学習ノート ・トレーニング計画書

5 評価規準・評価方法

3 辞恤规毕·辞恤万伝								
評価は次の4つの観点から行います。								
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能・表現	知識・理解					
・自己の身体状況を把握しよう	・自己の身体状況の問題点を見つ	・様々なトレーニング方法を確実	・自己の身体状況を理解するととも					
としている。	け出し、改善目標を掲げることが	に身につけ、自己の身体状況に	に、ヘルスプロモーションについ					
・自らが健康で長生きをするた	できる。	合わせて、正しく効果的に実践	ての理解に基づき、生活に生かす					
めに、肥満や生活習慣病に対す	・自己の健康を阻害する生活習慣	することができる。	方法を説明できる。					
る一次予防について積極的に学	を見つけ出し、改善目標を掲げ主	・結果の評価に従って、改善しな	・肥満を初めとする生活習慣病を予					
ぼうとしている	体的に取り組むことができる。	がらより効果的なトレーニング	防するための活動を実践できる。					
ヘルスプロモーションの考え	・各自が計画した自己のトレーニ	方法をみつけ出す取り組みができ	・健康生活を阻害する問題行動の防					
方を理解できる。	ング計画を実践し、その結果を評	る。	止に努めることができる。					
・上記について理解し実際にト	価することができる。		・健康を支える制度について十分に					
レーニング計画を作成し、実践			理解し説明できる。					
することができる			・トレーニング計画に従って、正し					
			く実践することができる。					
以上の観点を踏まえ	以上の組占を除すう							

以上の観点を踏まえ、

・授業への参加意欲の観察 ・授業中参加の状況の観察 ・ノートの記入状況 ・各自のトレーニング計画及びその実施状況 などから、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

- ・保健②の分野の学習が終了していない生徒に対する配慮をしながら学習を進めます。
- ・体力トレーニングを行う場合、男女の身体的特徴を考慮して、授業を進めます。

令和2年度シラバス	救急法	学番65 新潟県立出雲崎高等学校
-----------	-----	------------------

教科(科目)	救急法	単位数	2 単位	年次	2年次~
使用教科書	図解 みんなの救急(大修館))			
副教材等	応急手当講習テキスト(東京	法令出版)			

災害や交通事故、身近なところで急な病気や怪我が発生した場合など、「救われるべき命」を救うことができるよう、いざという時の心構えや応急手当の方法について身につける。

2 指導の重点

実践的な学習を多く取り入れ、二次災害を防止しながら救急蘇生法の実際について学び、その技術の習得を目指します。

3 学習の計画

月	単元名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
	オリエンテーション、手当 の基本	救急法を学ぶ目的、救急法の範囲・実施上の一般的注意事項について理解する。	6	
前	感染予防、体のしくみ 異物除去、運搬法	感染など2次災害の防止や患者の運搬について必要な知識と実技を交えて 学習する。	12	
期	救急法の基礎知識、熱中症 、包帯法	心肺蘇生法の手順や熱中症の予防・手当、包帯法について実技を交えて学習 する。	14	・授業への参加
79]	前期のまとめ、考査	前期に学習した内容を再確認し、考査に向け準備する。	4	意欲の観察
	上級救命講習受講に向け ての準備	後期に実施する救命講習の受講を前に必要な予備知識を学習する。	6	・授業中参加の 状況の観察
	救命講習	消防署の救命士から上級救命講習の講習を受ける。	3	筆記・技能テスト
後	熱傷、骨折に対する応急手当	熱傷、骨折の手当の基本原則や知識について学習する。	15	の結果
期	中毒に対する手当	食べたり、飲んだり、吸ったりすることによって起こる中毒の応急手当について学習する。	4	
	後期のまとめ、考査	1年間学習したことを再確認し日常の応急手当に結びつけるとともに、考査に向け準備をする。	6	

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

各実習について、必要な技術は身に付くまで補習等を行います。

5 評価基準・評価方法

次の4つの観点から評価します。								
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能・表現	知識・理解					
救急法の心構えや手当の重要さを	事故現場や患者の容態に即した	手当や感染防止の基礎技能を身に	怪我や病気に対しての基礎的な手					
理解し、協力しながら学習に取り組	行動ができる。	つけ、その要領を意識しながら練習	当の要領を理解することができる					
み、活動に参加している。		することができる。						
以上の観点を踏まえ、								
・授業への参加意欲の観察								
・授業中参加の状況の観察								
・筆記や技能テストの結果	などから、総合的に評価し	します。						

6 担当者からの一言

健康を守り、命を救うため人体のしくみや病気などについて幅広い内容を学習します。 専門家の指導を取り入れ、実践力を身につけるようにします。

教科(科目)	スポーツⅡA	単位数	2 単位	年次	2年次~
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

それぞれの型に応じた攻防で個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競い合うといった特性があること を理解する。

2 指導の重点

球技の専門的な理解と高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに 、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てます。

3 学習の計画

月	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前	バスケットボール	仲間と計画を立て習得した個人技能をゲームに生かせるように活動する。	1 4	・授業への参加意欲の観察
	バレーボール	仲間と計画を立て習得した個人技能をゲームに生かせるように活動する。	1 4	12.00
期	卓球	卓球の基礎的な技能の習得とゲームを通して実践的な技能を身につける。	1 4	・授業中参加の 状況の観察
後	ソフトボール	個人技能を習得し、ゲームに生かせるように活動する。	1 4	++-4k-=>-1 cb
期	ラグビー	個人技能を習得し、ゲームに生かせるように活動する。	1 4	・技能テストや 記録結果

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

なし

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。						
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
球技の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るよう、フェアなプレイを大切にしようとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとすることなどや、健康・安全に主体的に取り組もうとしている。	生涯にわたる豊かなスポーツ ライフの実現を目指して、自 己や仲間の課題に応じた競技 を継続するための取り組み方 を工夫している。	球技の特性や魅力に応じて、ゲームを展開するための作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めて、身につけている。	技術などの名称や行い方、体力の 高め方、課題解決の方法、競技会 の仕方などを理解している。			

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への参加意欲の観察
- ・授業中参加の状況の観察
- ・技能テストや記録結果

などから、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

球技種目を中心に行います。

生涯にわたってスポーツを楽しむことができる技術、知識を身につけることを目指します。

令和2年度シラバス	スポーツ Ⅱ B	学番65 新潟県立出雲崎高等学校
-----------	-----------------	------------------

教科(科目)	スポーツ I B	単位数	2単位	年次	3年次~
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

それぞれの型に応じた攻防で個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競い合うといった特性があることを理解する。

2 指導の重点

球技の専門的な理解と高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、 生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てます

3 学習の計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前	バドミントン	習得した個人技能をゲームに生かし、ルールや審判方法を身につけ実践出来るようにする。	1 8	・授業への参加 意欲の観察
期	ゴルフ	クラブのスイングをマスターし、グランドゴルフやターゲットゴルフなど でターゲットへ正確に打つ事ができるようにする。	1 7	授業中参加の
後	サッカー	サッカーのゲームを通して個人技能をチームプレイに生かせるように活動 する。	1 8	状況の観察
期	テニス	ストロークを中心にシングルスやダブルスの基本的技能を身につける。またルール や審判方法を学び、ゲームを運営できるようにする。	1 7	・技能テストや 記録結果

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

なし

5 評価基準・評価方法

次の4つの観点から評価します。						
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能・表現	知識・理解			
球技の楽しさや喜びを深く味わう	生涯にわたる豊かなスポーツラ	球技の特性や魅力に応じて、ゲ	技術などの名称や行い方、体力			
ことが出来るよう、フェアなプレ	イフの実現を目指して、自己や	ームを展開するための作戦や状	の高め方、課題解決の方法、競			
イを大切にしようとすること、役	仲間の課題に応じた競技を継続	況に応じた技能や仲間と連携し	技会の仕方などを理解している			
割を積極的に引き受け自己の責任	するための取り組み方を工夫し	た動きを高めて、身につけてい	•			
を果たそうとすること、合意形成	ている。	る。				
に貢献しようとすることなどや、						
健康・安全に主体的に取り組もう						
としている。						

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への参加意欲の観察
- ・授業中参加の状況の観察
- ・技能テストや記録結果

などから、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

1年間を通して球技全般を行います。

生涯にわたってスポーツを楽しむことができる技術、知識を身につけることを目指します。